

科 目	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
警察ニ關スル諸費	七五、一五六	七四、六三八	七四、九一三	七八、九六七	七七、四九〇
土木ニ關スル諸費	一一〇、八四五	一九七、三八三	九一、三三七	七八、七二九	一五〇、五〇五
衛生及病院ニ關スル諸費	二一、七二二	一三、六二六	六、〇四二	六、六九二	九、八七〇
教育ニ關スル諸費	一〇四、三六〇	一〇七、六八三	七八、七二八	七九、四五二	八三、二九五
郡役所ニ關スル諸費	三〇、一四五	三四、九三二	三三、一七四	三二、六六〇	三一、四八一
勸業ニ關スル諸費	三七、一四四	四八、五一八	三八、八七〇	四四、〇〇二	六一、〇三八
縣吏員費	八、九四一	九、一二二	九、八七二	一〇、四七九	一七、六一三
其他諸費	三一、五七〇	三四、五八六	三三、二一〇	二八、四二四	四〇、六三三
計	四一九、八八三	五二〇、四八七	三六六、一四六	三五九、四〇四	四七一、九二五

三十九年度は豫算額を三十八年度以前は決算額を掲ぐ

郡費累年比較表 (五箇年)

科 目	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
會 議 費	四、三一〇	六、四三七	四、二〇〇	五、六二四	五、二五九
郡 吏 員 費	三、四七五	三、五六〇	二、四七二	二、六三一	三、三二四

科 目	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
土木ニ關スル諸費	一九、一八五	一四、九九八	一〇、五六六	五、五二三	七、七六二
教育ニ關スル諸費	一、八八九	一、四三三	三八二	六五四	八、八七〇
勸業ニ關スル諸費	一三、一四二	一三、六五五	九、一〇七	一一、一六九	一五、一八八
衛生及病院ニ關スル諸費	三、〇八一	三、八二五	一、七〇二	一、六七四	一、七八九
郡 費	六一六	一〇、三三四	五、三五三	二、六〇九	九、四二二
其他諸費	三、二一〇	一〇、三三四	五、三五三	一、八八六	九、四二二
合 計	四八、九〇八	五四、二三二	三三、七八二	三一、七七〇	五一、六〇四

三十八年度以降は豫算額を三十七年度以前は決算額を掲ぐ

市町村費累年比較表 (五箇年)

科 目	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
役所及役場費	一五六、〇八三	一六〇、五〇八	一五二、二二四	一五六、二三一	一五五、八〇七
會 議 費	一〇、二七〇	一〇、六七九	六、〇八三	八、五〇四	一一、六四八
土木費	六六、八四七	八八、四七一	二一、一四五	四四、七四九	三八、三九三
教育費	二五九、七四〇	二五二、五四六	一九三、五三八	二〇五、一一六	二八三、二二六
衛生費	三三、二八三	二四、四二二	一六、四三七	一九、三九五	一六、八七二
勸業費	八、三七六	九、九八二	四、八五六	六、〇五三	四、一八〇

諸税及負擔	四四、八六七	五三、六二〇	二五、八二七	二七、八三一	四〇、〇九八
預備費	一〇四、〇五六	一〇四、二八一	八八、四九七	六三、二六八	五二、〇七四
基本財産編入金	二〇、六五四	二〇、一一〇	一七、九三一	一八、九二八	二三、四三四
其他諸費	二八、〇七八	三二、二三四	三二、三四六	四〇、二五四	五五、九二九
合計	七三一、二五四	七五六、八三三	五五八、八七四	五九〇、三二九	六八一、六五一

三十九年度は豫算額を三十八年度以前は決算額を掲ぐ

水利組合費累年比較表 (五箇年)

科目	三十五年度	三十六年度	三十七年度	三十八年度	三十九年度
管理費	三、三九九	三、五三七	二、九四一	三、五九九	三、四七二
會議費	一、二三四	一、二四五	八一六	一、四三八	一、四四三
事業費	二四、八五二	二八、七五〇	一〇、九七九	三七、五〇七	三一、一五七
公債費	二、四二二	三、〇〇八	二、八二三	二、一五六	三、〇四三
其他諸費	一六八	一、四五九	四、六九〇	一、八四四	三、五二四
合計	三二、〇七五	三七、九九九	二二、二四九	四六、五四四	四二、六三八

三十八年度以降は豫算額を三十七年度以前は決算額を掲ぐ

郡有財産 (三十九年六月末現在)

種別	價格
有價証券	一〇、二〇七
現金	八、一六六
合計	一八、三七三

市町村基本財産 (三十八年度末現在)

種別	價格
土地	九二、八四五
建物	一八四、七六七
公債	二、三三四
株式	七四、六一二
諸債	五二、八〇五
現金	六四、〇三一
合計	四七一、三八四

公債

縣債

科 目	郡債			
	三十五年 末	三十六年 末	三十七年 末	三十八年 末
土木費	1,000	1,000	1,000	57,000
科 目	三十五年 末	三十六年 末	三十七年 末	三十八年 末
土木費	1,000	1,000	1,000	57,000

市町村債

科 目	三十五年 末		三十六年 末		三十七年 末		三十八年 末		三十九年 末	
	上 債	内 債	上 債	内 債	上 債	内 債	上 債	内 債	上 債	内 債
教育費	5,570	2,220	4,000	2,200	2,830	4,800	2,650	3,300	8,300	1,930
衛生費	3,330	3,330	2,200	2,200	6,000	4,200	4,200	4,200	3,300	1,930
土木費	2,220	2,220	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
借入金	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220
勘定外	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110
勘定外	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110

第二 勤勉貯蓄

勤勉貯蓄は常に之か奨励に努めつゝあり殊に三十七八年戦役に際しては一層奨励を加へたる結果組合を設けて蓄積を爲すもの漸次増加の傾向を示せり今三十九年末に於ける勤勉貯蓄の實況を擧ぐれば左の如し

科 目	三十五年 末		三十六年 末		三十七年 末		三十八年 末		三十九年 末	
	上 債	内 債	上 債	内 債	上 債	内 債	上 債	内 債	上 債	内 債
教育費	5,570	2,220	4,000	2,200	2,830	4,800	2,650	3,300	8,300	1,930
衛生費	3,330	3,330	2,200	2,200	6,000	4,200	4,200	4,200	3,300	1,930
土木費	2,220	2,220	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
借入金	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220
勘定外	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110
勘定外	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110	1,110

種 類	貯蓄人口		現住人口		貯蓄高		貯蓄人口一人當		本縣現住人口一人當	
	貯蓄人口	現住人口	貯蓄高	現住人口一人當	貯蓄高	現住人口一人當	貯蓄高	現住人口一人當	貯蓄高	現住人口一人當
穀物	1,472	4,356	4,356	4,356	4,356	4,356	4,356	4,356	4,356	4,356
有價証券及現金	19,876	43,560	76,471	93,340	3,847	0,001	0,001	0,001	0,001	0,001

備考 現住人口は三十八年末現在に依る

第七章 警察

第一 警察區劃及配置

本縣警察區劃は明治十四年再置縣以來數度の變革を經明治二十九年十月縣下を通して九警察署六分署に區劃せられ以て現今に至れり而して各署管區内は之を二百二十二の受持區に分ち各巡查を配置し警察事務に従事せしめつゝあり今配置定員及派出所駐在所合計數を擧ぐれば左の如し

派出所	駐在所	職 員	
		警 視 警 部 巡 査 計	員
巡查部長派出所 二		一	二
巡查派出所 五		二	一〇
水上派出所 二		一	五
		四	一七

前掲巡查定員三百十五人の郡市別及巡查一人に對する人口數は左記の如し

郡 市 部	巡 査 定 員 人	口	巡査一人に對する人口
郡	四四	三一、八〇九	七二三

郡 部	計	四〇三、八四一	一、四九〇
郡	計	四〇三、八四一	一、四九〇

(人口は明治三十八年十二月末日現在に依る)

第二 司法警察

犯罪件數及檢舉

最近三箇年間に於ける犯罪數は左記の通りにして重輕罪に於て三十七年に多く三十八年以降漸次減少の傾向あるは日露開戰の結果一時細民の生活狀態困弊に陥りしも三十八年に至り平和克復後細民各其の職を得生活狀態に於て餘裕を生ずるに至りたるに起因するものゝ如し

犯罪件數及檢舉數

年 別	受 理 件 數			計	檢 舉 件 數			計
	重 罪	輕 罪	盜 罪		重 罪	輕 罪	盜 罪	
三十七年	五〇	四、〇六六	三、三四一	七、四五七	三〇	二、一〇二	三、三四一	五、四七三

三十八年	七二	三,四七九	四,五九四	八,一四五	六九	二,〇二二	四,五九四	六,六七五
三十九年	四八	三,二四一	四,五三三	七,八二二	四一	一,二七七	四,五三三	五,七五一

犯罪中財産に對するもの最も多數を占む其被害及檢舉の歩合は左の如し
同上財産に關するもの

年 別	被 害		檢 査	
	件 數	金 額	件 數	金 額
三十七年	二,七六六	六九,二三二・二九七	一,〇五九	九,八〇二・七八〇
三十八年	二,四一六	三六,四九六・二五九	一,一三八	二六,三九二・四六〇
三十九年	二,一八五	二七,五四六・五五三	一,〇三三	二〇,四一〇・一三三

便宜處分及刑の執行猶豫

便宜處分及刑の執行猶豫に對する成績は左表の通りにして便宜處分に於て三十九年に六人刑の執行猶豫に於て三十八年に一人の再犯あるのみにして其の結果頗る好良なり
便宜處分及刑の執行猶豫

年 別	便 宜		處 分		刑の執行猶豫	再犯有無
	檢事處分	司法警察官處分	計	後犯の有無		
三十七年	五九九	—	五九九	—	—	—
三十八年	六一五	一五八	七七三	—	二〇	—
三十九年	三五三	二九四	六四七	六	一六	—

備考 司法警察官の便宜處分及刑の執行猶豫は三十八年以後の實施に係る

第三 行政警察

風俗警察

最近三箇年間に於ける風俗取締に關する營業者其の他の數は左表の如し

貸座敷娼妓其他

年 別	貸座敷	娼 妓	飲 食 店	料 理 屋	合 計
三十七年	三九	九四	一一六	一,七八六	二,二二三
三十八年	—	—	—	—	—
三十九年	—	—	—	—	—
合計	三九	九四	一一六	一,七八六	二,二二三

三十八年	三五	八六	一三二	一、六一五	一八六	二、〇四四
三十九年	三九	六九	一四四	一、六五二	一九一	二、〇九五

賭博及密賣淫

年 別	賭		博		密 賣 淫		合 計
	博	密	博	密	賣	淫	
三十七年			二九四		四八		三四二
三十八年			一六五		五八		二二三
三十九年			三三二		五九		二八一

交通警察

本縣は東西南は三面峻岳高嶺を以て圍繞せられ他府縣との交通連絡不完全なる爲旅人の往來頻繁ならず爲に交通警察に關する營業者も比較的少なく且年々著しき異動なし

年 別	種 別		合 計
	人 力 車 馬	車 別	
三十七年	一、五九〇	一六	一、六〇六

三十八年	一、五六八	一五	一、五八三
三十九年	一、五八〇	二二	一、六〇一

營業警察

警察取締に屬する諸營業者中重なる數は別表の如し

取締諸營業

年 別	古 物 商 賣		屋 宿	屋 合	合 計
	古	物 商 賣			
三十七年	三、八一七	四二〇	五五一	四、七八八	
三十八年	三、六五五	四〇五	五三七	四、五九七	
三十九年	三、四四一	三五八	五四三	四、三四二	

火災警察

消防設備は未だ一般に普及するに至らず最近三年間に於ける火災及消防設備の狀況左表の通にして火災の大多數は失火に基因す

火災及消防

年 別	火			災			消防組	
	度數	軒數	坪數	被害	價格	組數	部數	
三十七年	二二二	四五三	二、〇九八	九三、一三四	四四二	五二	九四	
三十八年	一二五	五四八	八〇六五	一〇四、八五二	二〇〇	五二	九四	
三十九年	一三五	二二二	六七七二	一四六、一三三	七五九	五四	九七	

衛生警察

縣下交通不便の爲他府縣より病毒の侵入を受くること少きも赤痢病腸窒扶斯實扶的里亞の如き年々多少患者の發生を見ることがなし
 現在市町村傳染病院の數は五にして隔離病舎六十四なり最近三箇年間の傳染病患者を表示せは左の如し

年 別	赤痢		腸窒扶斯		實扶的里亞		計
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡	
三十七年	一三四	四二	八六	二九	七九	三七	二九九
							一〇八

傳染病患者

三十八年	五七	一七	二六七	六二	一四七	五五	四七一	一三四
三十九年	二五五	六九	二九五	四六	一四三	四六	六九三	一六一
計	四四六	一二八	六四八	一三七	三六九	一三八	一四六三	四〇三

衛生上の取締に關する業體は年次増加するの傾向あり最近三箇年間に於ける重なる業體左表の如し

衛生諸業體

年 別	營業別	醫師	藥劑師	藥種商	製藥者	賣藥者	産婆	看護婦	鍼灸治業者	灸治業者
三十七年		三八四	二四	一八二	二六	二六七	一六〇	一九六	一七六	一六七
三十八年		三五二	二四	一八七	二七	二五二	一六一	二〇五	一八七	一七〇
三十九年		三五九	二一	二〇九	二六	二七三	一五七	二〇三	二〇六	一九四

第八章 各種團體

第一 日本赤十字社鳥取支部

本縣にては明治二十一年一月始て赤十字社委員部を設置せり當時社員僅

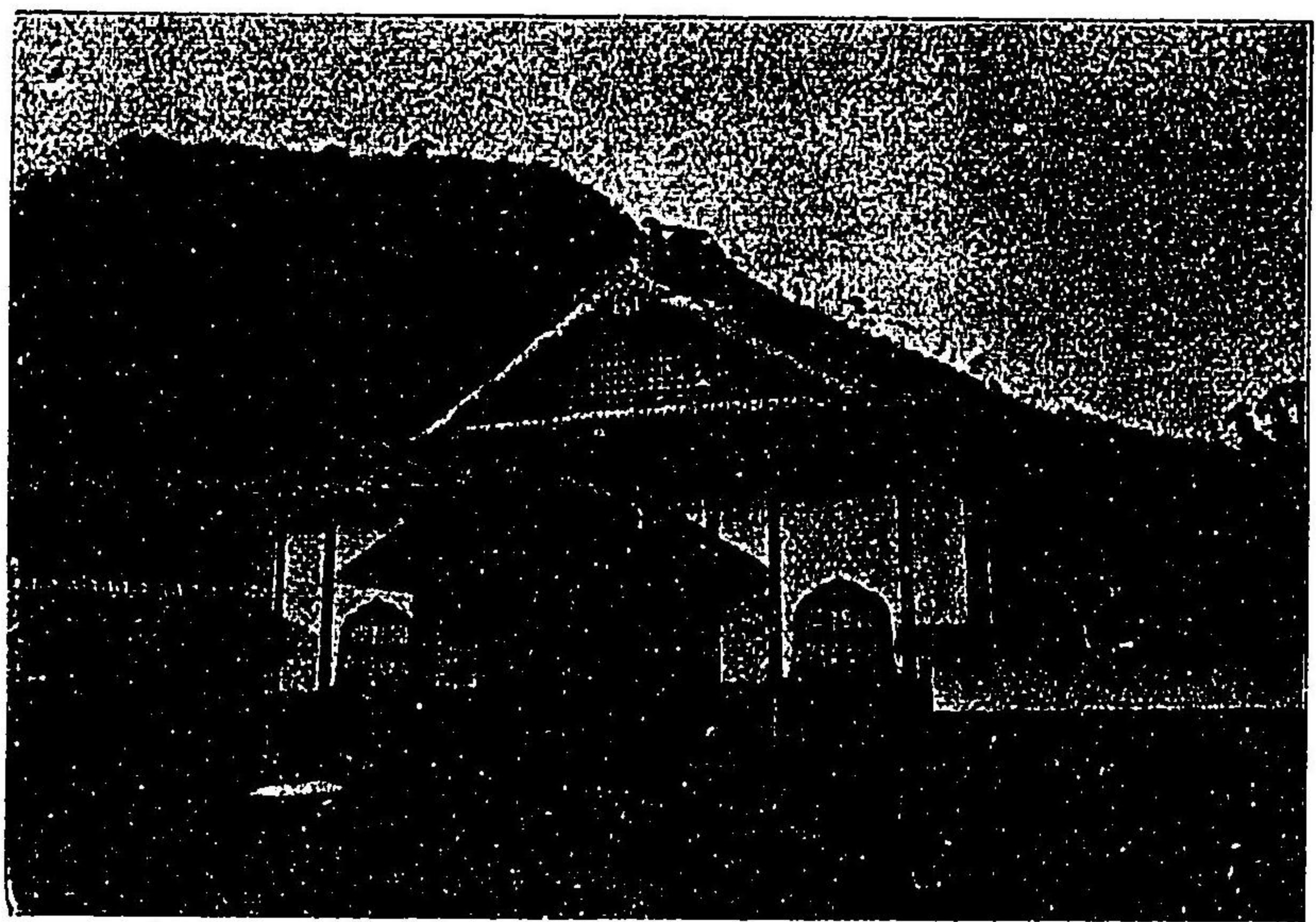
に百二十三名に過ぎざりしか同二十七年日清の役起るや社旨漸く縣下に普及し社業發展の機を促し來り同二十八年四月に於ける社員數は二千餘名を算するに至れり是に於て委員部を改て鳥取支部とし倍々社業の振興に務めたる結果三十三年末に於る社員數は五千餘名に達したるを以て翌三十四年四月第一總會を開きて總裁宮殿下の來臨を辱ふするを得たり當時新に加盟せしもの三千名に餘れり三十五年中支部新築の議成り翌三十六年三月起工同年十一月事務所移轉の式を擧ぐ爾來日露戰役あり社業益々發展の動機となり現今にては社員數一萬二千餘名に上り人口三十五人に付社員一人の比例を示すに至れり

救護班

明治三十七八年戰役の起るや赤十字社鳥取支部は第六十四第六十五の二個救護班を編成し六十四救護班は姫路豫備病院に六十五救護班は善通寺豫備病院に派遣したり而して六十四救護班は三十八年八月十四日に及び陸軍御用船吉生丸に乗込み救護事務に従事せしか同年十二月救



部支取鳥社字十赤本日



場武濱部支取鳥會德武本日

護班解散の命に接したり

社員累年統計 各年末

社員別	年次	
	廿八年	廿九年
特別	四	一〇
終身	七	八
正社員	一、六六	二、〇〇
賛助員	三三	三三
計	二、三四	二、五〇
	廿九年	卅年
特別	一〇	一一
終身	七	八
正社員	一、六六	二、〇〇
賛助員	三三	三三
計	二、五〇	二、六六
	卅一年	卅二年
特別	一〇	一〇
終身	七	七
正社員	一、六六	一、五〇
賛助員	三三	三三
計	二、一六	二、〇〇
	卅三年	卅四年
特別	一〇	一〇
終身	七	七
正社員	一、六六	一、五〇
賛助員	三三	三三
計	二、一六	二、〇〇
	卅五年	卅六年
特別	一〇	一〇
終身	七	七
正社員	一、六六	一、五〇
賛助員	三三	三三
計	二、一六	二、〇〇
	卅七年	卅八年
特別	一〇	一〇
終身	七	七
正社員	一、六六	一、五〇
賛助員	三三	三三
計	二、一六	二、〇〇
	卅九年	
特別	一〇	
終身	七	
正社員	一、六六	
賛助員	三三	
計	二、一六	

第二 日本赤十字社篤志看護婦人會

本會は明治三十四年四月五日の設立に係り日露戦役中出征軍人の送迎傷病兵慰籍軍隊慰問及び戦病死者の會葬等に努め巻軸綑帯を製して陸海軍に寄贈せしもの一千五百個歩兵第四十聯隊及同後備聯隊に手拭五千筋を

寄贈し其の他會員發起となり縣下篤志者を勸誘して慰問袋七千六十個手袋三千七百個足袋五千七百個を募集し以て當衛戍出征軍隊に寄贈せる等戦役中に努めたる効績少からす目下會員數百七人看護卒業者二十八名あり

第三 愛國婦人會鳥取支部

本支部は明治三十四年八月の創立に係り爾來之が擴張を圖りたる結果特別會員百二十八人通常會員千八百二十一入賛助員三百七十二人終身會員七十七人有功章を受けたるもの十人に及び尙ほ會務發展中に屬す日露戦役中出征軍隊の送迎に従事し出征軍隊又は戦病死者遺族の物品寄贈及慰籍に當り或は療病兵出征軍人の家族慰問或は戦病死者の會葬等に務め頗る奉公の實を擧げたり

第四 鳥取縣軍人幼兒保育會

始め日露戦役中出征軍人の家族兒童を保育する後援事業として二三有志者は出征軍人兒童保育會なるものを設立せしか後之が組織を擴張する所あり當時鳥取市有志婦人は奉公會なるものを組織して保育會の爲に資金を募集供給する所ありしか本會は之を繼承し其の資金も亦奉公會の殘資金を繼承して維持しつつあり目下事業擴張の計畫中なりとす

第五 鳥取孤兒院

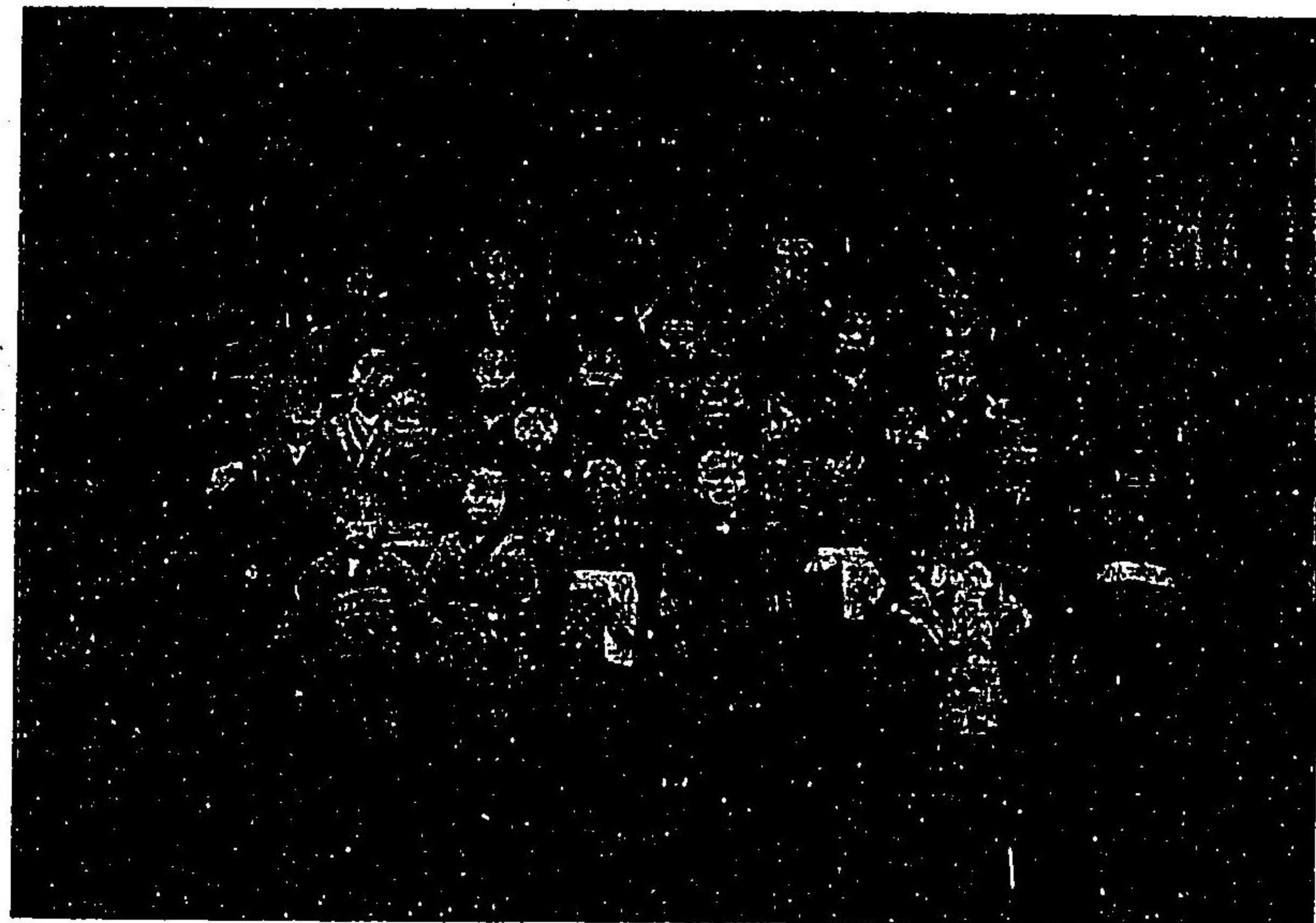
因伯兩州に於ける孤兒貧兒棄兒等を救済教育して善良忠實の國民たらしめんとする目的を以て明治三十九年一月鳥取市東町に設立し慈善家の同情より成る賛助金及び特別寄附金を以て之を維持せり經費は一ヶ月約百圓以上を要し一口三錢以上の寄附金を以て之に充つるの豫算なり目下收容の兒童二十六名にして本年一月現在の賛助金口數凡一千零三十人金百八十三圓五十五錢なり

第六 東伯郡橋津獎惠社

本社は慈善其の他公益に關する事業の經營を以て目的とし明治十五年三月始て社を東伯郡橋津村に設け爾來着々其の事務を整頓し既に二十餘年の久しきを経過せり組織は社団法人にして社員は初め同盟者と稱し其の數百九十人なりしか資本の増募と共に其の人員を増して現今五百九十一人に達し基本金八千九百六十八圓餘を有し之より生ずる收入及び臨時寄附金を以て事業の經營をなせり其の梗概は左の如し

貧民救助 定例の救助は目下中止せしむ雖不慮災厄に罹りたるもの若は老衰疾病等に由り自活の方法なきものに對しては特に隨時救助を行ひつつあり

徵兵優待 新兵の入營に際しては送別會を開き餞別金を贈與し又滿期退營のものには慰勞會を催し且在營中の成績を調査して慰勞金を贈與す其の他死亡者あるときは祭祀料を贈り新領土若くは國外駐屯の



鳥取孤兒院



鳥取縣人幼保兒會(提燈製造會)

ものには慰勞狀及慰勞金を贈與せり
小作人獎勵 優等米には賞品を附與し害虫驅除の爲には無利息にて資
金を貸付する等専ら小作人獎勵の方法を行へり其の他勤儉貯蓄を獎
勵し一般の功勞者を表彰する等地方經濟上及び社會上に貢獻するも
の尠からす

第七 報徳社

二宮尊徳の教旨を尊重し常に勤儉推讓の道を講ずる所の公益法人報徳社
及び之と目的を同ふする社團は通して二十三に及び尙漸次増設の傾向を
呈するに至れり而して右社團は孰れも創立日尙淺きを以て成績の顯著な
るものなしと雖社員は克く報徳の主旨に則り勤儉推讓に努め諸税公課を
重んじ公約を嚴守する等良風美俗の範を示すに足るものあり就中鳥取縣
人報徳社は日露戰役に際して恤兵慰問袋寄贈等に努め又報徳するへなる
小冊子七千部を刊行し以て社旨の弘通を圖り尙報徳教と儼僅の用意と題

する一文章を印刷し之を縣下各郡市町村役場及び學校へ配付して一般の獎勵に資せり今各社の狀況を表示せば左の如し

報德社 (明治三十九年十二月末現在調)

社名	所在地	創立年月日	存立年限	社員數	資本金	各種金	各種積立金	産
鳥取婦人報德社	鳥取市中町	三十七年九月	三十一年	一五八	六、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇
八頭部佐貫村大字佐貫村	八頭部佐貫村大字佐貫村	三十七年九月	二十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇
湖山報德社	氣高郡湖山村	三十七年九月	六十一年	三	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
東郷報德社	東郷郡東郷村大字	三十六年九月	三十一年	一五	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
灘手報德社	東伯郡灘手村大字	三十八年四月	三十一年	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
法勝寺報德社	西伯郡法勝寺村大字法勝寺	三十八年二月	三十一年	六	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
時津報德社	西伯郡時津村大字	三十八年五月	二十一年	六	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
宇田川報德社	西伯郡宇田川村大字宇田川	三十年三月	三十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
大森津報德社	西伯郡大森津村大字大森津	三十八年九月	二十一年	六	八、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
東長田報德社	西伯郡東長田村大字東長田	三十八年三月	二十五一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
大國報德社	西伯郡大國村大字	三十七年十月	二十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
高麗報德社	西伯郡高麗村大字	三十八年七月	二十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇

夜見報德社	西伯郡夜見村	三十九年三月	十二一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
彦名報德社	西伯郡彦名村	三十九年三月	二十一年	三	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
上長田報德社	西伯郡上長田村大字中谷村	三十九年三月	二十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
福生報德社	西伯郡福生村大字福生	三十七年十月	二十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
大高報德社	西伯郡大高村大字	三十八年三月	十一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
縣報德社	西伯郡縣村大字	三十八年十月	十二一年	六	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
山上報德社	日野郡山上村	三十九年三月	二十一年	二	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
伊勢崎報德社	東伯郡伊勢崎村大字下村	三十九年十月	二十一年	二	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
浦富報德社	岩美郡浦富村大字浦富	三十八年二月	十五一年	二	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
恩志報德社	岩美郡本庄村大字恩志	三十八年二月	二十一年	二	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
上北條報德會	東伯郡上北條村大字中江村	廿一年十二月	二十一年	一、八三	〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
計								

第八 大日本武德會鳥取支部

本會創立以來會員微々たりしも三十四年に至り會員は頗る増加し三十五年四月支部を設置し同時に演武場建築を企て三十七年三月落成す又米子

地方會員に於ても三十八年四月演武場を有するに至る即ち左の如し

會員

一萬二千八百十五人

基本金

五千四百九十貳圓貳拾五錢

米子演武場基本金

貳千圓

明治四十年五月一日印刷
明治四十年五月三日發行

鳥 取 縣

東京市神田區通新石町三番地

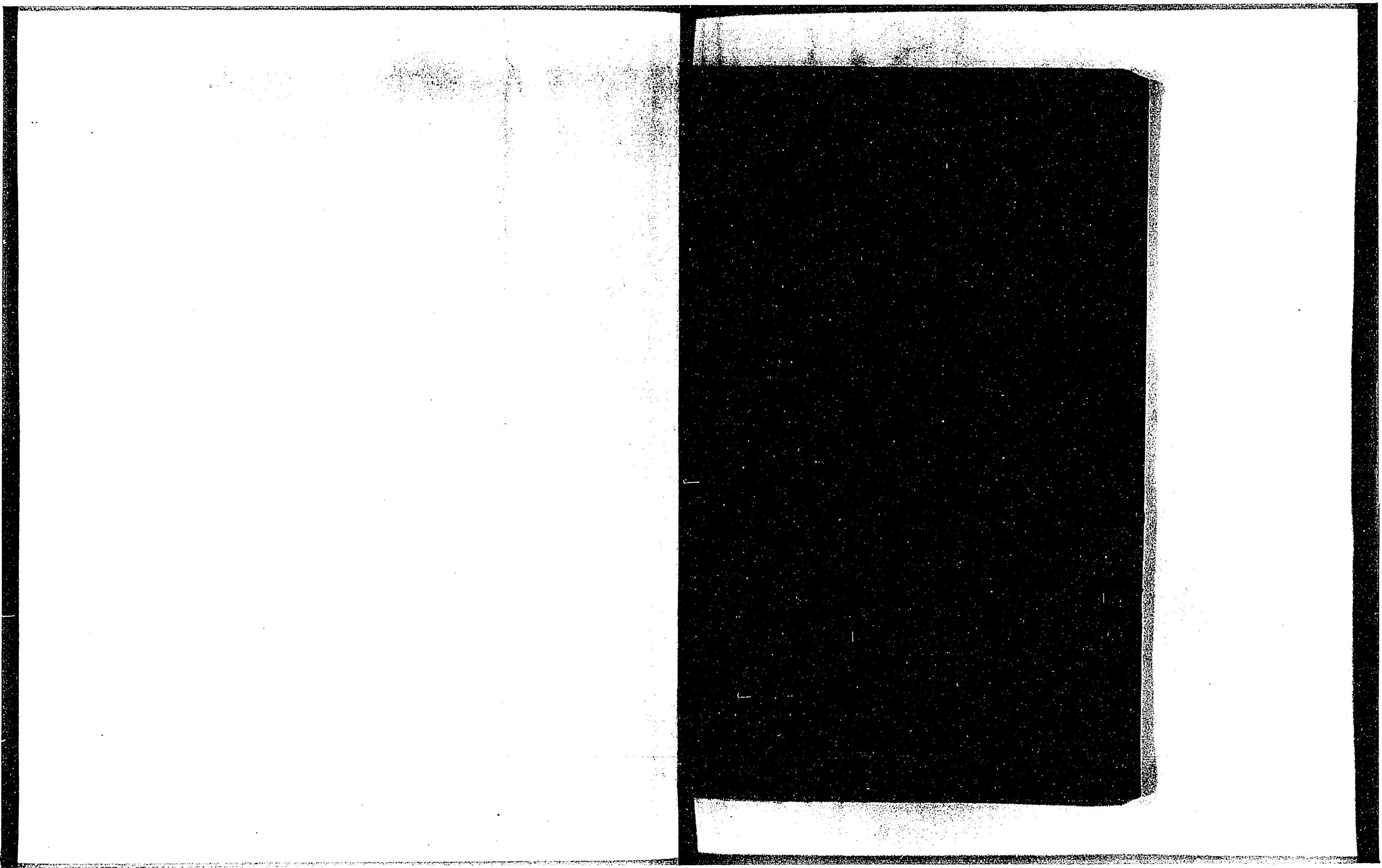
印刷者 田中市之助

東京市神田區通新石町三番地

印刷所 東 陽 堂

(電話本局九七〇)

74
1876
1876



74
386

(M)

025778-000-7

74-386

因伯記要

鳥取県／編

M40

ADC-3315



